

第2回 学校運営協議会 9月11日(土) 14:30～ ICT教室

出席者	会長	妹尾 久雄
	副会長	渡部 昭司
	コーディネーター	矢野 真一
	委員	鈴木 綾
	委員	小野 修平
	委員	宮本 尚登(校長)
	委員	矢崎 慶(副校長)

市教育委員会事務局(社会教育課)

● 校長あいさつ

本校では、9月1日は分散登校で始業式を行いました。翌日からは、オンライン授業を実施しています。

緊急事態宣言の延長を受け、3学年の修学旅行及び1学年の移動教室は、それぞれ1ヶ月程度延期して実施する予定です。

今後も保護者の皆様の信頼を裏切らないよう、感染防止を徹底しながら安心安全な学校運営に努めてまいります。

本日は、前回の熟議で話題となった5項目を中心に議論をお願いします。

なお、今後、保護者の皆様の教育活動への参画については、諸課題を整理していく必要があると考えています。共働き世帯でも無理なく活動できる保護者の皆様の活動のあり方を模索していきたいと思っています。

様々なご意見をいただけたら幸いです。本日もよろしくをお願いします。

● 熟議「学校と地域の協働活動について ～第1回で話し合った5項目を中心に～」

(司会) 会長

(1) VRを活用した取組

委員 VRを活用した取組を進めている。教育委員会、民間企業と支援を受けながら実施していきたい。実現可能であれば、12月17日(金)に実施したい。

(2) 子ども・地域応援企画提案事業(仮称;スケート教室)

委員 スケート場を貸し切る方向で調整を行ったが、コロナ禍なので集団での活動は中止しているとのことで実施は難しい。

そのため、代替策として、「プラネタリウムを見ながら音楽鑑賞」する企画にした。審査が通れば、11月12日(金)午後 本校体育館で実施したい。今、審査結

果を待っている状況である。なお、補助金が下りれば実行、下りなければキャンセルとする。

(3) 放課後の見守り活動（仮称；放課後ステイルーム）

委員 明保中生徒の居場所づくりとしてやっていく。定期テスト前の自習、読書、質問教室等を考えている。

委員 運営はどこがやるのか。

委員 一昨年までは学校の許可をもらってやっていた。

委員 放課後子ども教室のように、学校とは別のところで運営をした方が良いと思う。

委員 場所はどこでやるのか。

委員 本がなくても良いなら、図書室ではなく、このICTルームを使うのが良いのではないか。

委員 生徒は放課後一度帰ってから参加するのか。

委員 帰らなくても良いのではないか。

委員 以前は世話人の方がいて、いろいろ対応してくれた。参加の事前申し込み制にするとハードルが上がってしまう。

委員 申し込みを年度当初に一度とし、そのときに保険もかけるのが良いのではないか。

委員 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の整理や検討をしながら、今回の本校の放課後学習ルームをどう位置づけるのか。

委員 地域学校協働活動の中の一つに、この学校ステイルームがある。地域学校協働活動の一環である学校ステイルームについて話し合う場が、この学校運営協議会と捉えれば良いと思う。

委員 今年度は市内の学校のモデル校として推進していたための補助金はあるのか。

委員 今までもらったことはない。

委員 今年度の事業内容が決まるまでは、学校管理下として計画をしていくほうが良いのではないか。

委員 ボランティアの善意だけでは無理がある。

委員 学校管理下とすると、生徒の立場では重たいものとなる。

委員 事故が起きた時の責任の在り方については考えておくことが必要である。

委員 他校の「放課後カフェ」は育成会から寄付が出ている。

委員 学校は今、オンライン授業で生徒は登校していないので、それが終わってからでいいのではないか。

委員 10月スタートを目標にしたい。

委員 今年度はどうするか、保険についてもどうするか決めなくてはならない。

委員 登下校の事故についても考えておかなければならない。社会教育課の学校応援団の仕組みから連動しているのか。学校応援団として予算がついているのか。

委員 今年はまだ予算がついていない。全市民対応の総合障害保険に入っているの、それで対応すれば良いのではないか。

委員 学校として、生徒は全員スポーツ振興センター災害共済給付制度に入っている。

委員 こういったことの仕組みを作ることが大切である。

委員 始めるにあたって、社会教育課とも連携を密にしていきたい。

委員 保険関係については、後日情報を集約したい。

委員 「放課後カフェ」の事例を参考にしながら、落ち度がないように進めていきたい。

委員 モデル校として、社会教育課と相談しながらきちんとやっていかなければならない。

委員 やるにしても、何かインパクトがないと生徒は来ない。定期テスト前に問題集をやろう！、手ぶらで気楽に自習に来よう！など…何かいいものがあれば。

委員 三中応援団では定期テスト前に予想問題集を出している。生徒から100円徴収してプリント代にあてている。

委員 定期テスト前だけでなく、それ以外も考えられないか。

委員 一人でその世話人をやるのは無理がある。二人以上は必要である。定期的になれば当番制という方法もある。

委員 スタート時に何をするか決めておかないといけない。現実スタッフを集めるのに苦労する。何をやるのかを考えておかないといけない。

委員 一年中ずっとやっていくのか。

委員 ずっとやっているわけではなく、途中から始めても、やめてもいいのでは。

委員 例えば月1回リラックスできる時間となるのもいいのではないか。居場所となればいいのだが。

委員 塾や部活ではない居場所になることが大切である。

委員 居場所としての役割か、学習をする場としての役割かどちらにするのか。学習の場とするのであれば、大学生を呼んでのサポートを頼むのも良い。

委員 定期テスト前の自主的な活動であって、お互いに生徒が教えあったりするのも良い。

委員 中間テスト・期末テスト前の活動が良い。

委員 今年度10月から始められるのではないか。

委員 10月の中間テスト前、11月期末テスト前にやってみて、その様子を1月のこの会で報告し検討していく、として良いか。

委員 冬休みの宿題を学校でやるのも良いのでは。

委員 それでは中間テスト前、期末テスト前、冬休み期間に実施することにする。

(4) 地域と生徒による修繕活動〈副校長〉

委員 令和3年、令和4年の計画だが、人選方法について検討が必要である。また、継続的な活動にするためにどうしたら良いか検討していきたい。

委員 先生方から出てきたものはどれか。

委員 壁紙修繕、ペンキ塗り、机や清掃用具入れの修理等である。

委員 養生テープ・シート・ゴム手袋・刷毛等いろいろ必要な物があるが、それらを準備することはクリアできているのか。

委員 学校予算の中で検討する。

委員 去年は保護者の活動がなく、何もわからない状態であるが、まずは地域の方が学校にかかわってもらうことが大事である。保護者は先生方との関りを求めている。不安や不満を学校に伝える場が今年は何もない。

委員 西東京市内の小中学校では「教師と保護者の会」「PTA」「保護者の会」と名称もばらばらでよくわからない。

委員 実際にはどうするのか。

委員 今回のペンキ塗りはだれが主催でやるのか。学校が呼びかけるのか、保護者の会が呼びかけるのか。

委員 次回までに学校と保護者の会との間で、調整していく3月実施を目指す。

(5) ゲストティーチャーを活用した授業

委員 次回検討する。こんな人材がいるという情報を収集していきたい。

●学校応援団について

(社会教育課からの説明)

委員 応援団の登録だけでは意味がない。活動がなければ成り立たない。運用にあたってそれが難しい。

委員 放課後ステイルーム等、生徒との関りがある場合は、人選が重要である。

委員 「我々は学校の下請けではない」という声もある。

委員 本校も市からの募集で応援団を募集する。

委員 悪意を持っている人には来てほしくない。全市内から来たらどうなるのか不安。また、例えば30名が登録しても10名だけ必要な場合はどうするのか。

委員 メール、SNS等のツールを活用できれば良いが。それにはシステムの運用方法をまとめる人が必要である。

委員 先生方も応援団になれる。

委員 先生方も希望すると良い。今年度はどうするのか、社会教育課とつめて決めていきたい。

委員 今後のことだが、「おやじの会」について皆さんの考えを聞きたい。

「おやじの会」のお父さん方が活躍する場がない。PTA、地域、保護者との関係

考えたい。小学校 18 校のうち 9 校、中学校 9 校のうち 4 校にはおやじの会がある。
おやじの会の在り方について議論させてほしい。おやじの会が機能できるように
していきたい。

委員 保護者、地域の方の関わり方については、次回以降検討していきたい。